

キャラクター名
焼野原 一本 ヤケノハラカズモト

プレイヤー名

シンドローム	サラマンダー		ワークス	UGN支部長C	カヴァー	葬儀場監督官兼所長
	ウロボロス					
オプション			年齢	??	性別	男
覚醒	感染	衝動	自傷	初期侵食率	33	%
出自	出家	経験	離別	邂逅	リヴァイアサン	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	30
肉体	3	0	0			3	行動値	6
感覚	1	0	0			1	(非装備時)	6
精神	3	1	0			4	戦闘移動	11
社会	1	0	0			1	全力移動	22

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃			RC	9		交渉		
回避			知覚			意志	1		調達	1	
運転:			芸術:			知識: 仏教	2		情報: UGN	1	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
通常回避	RC	12r+9				
氷壁	RC	13r+9				-5HP.

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
応急手当キット	

合計装甲: 0 合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイムス	消費
古代種	P 信頼	N 無関心		
最後の希望/最後の一本	P 懐旧	N 不安		
命	P 慈愛	N 偏愛		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 4 残り財産P:

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果: 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果: コスト分のHPで復活								
リフレックス:サラマンダー	2	2	リアクション	単体	自身			
効果: c値-lv。								
氷壁	1	5	リアクション	単体	自身			
効果: リアクションと組み合わせ可。射程視界で行われた攻撃に対して使用。対抗に成功で、攻撃が失敗する。								
原初の緑:完全抗体	3	2	リアクション	単体	自身			
効果: ダイス+Lv。								
浄玻璃の鏡	1	1	リアクション	単体	自身			
効果: rcドッジ。								
原初の赤:トランキリティ	5	4	リアクション	単体	自身			
効果: ダイスlv+1個。hp5点消費。								
フェニックスの翼	1	4	クリンナップ	単体	自身			
効果: HP5*Lv回復								
リセット	1	3	オート	単体	自身			
効果: シーン1。あらゆるバッドステータスを回復。重圧無視。								
メモリー	★							
効果: 八百比丘尼に奪われた日常:侵蝕値-10:仏門に属していたころ。ちょっとした失敗で古代種に感染した。長く生きるにつれて時間間隔や思考のスケールが変化していったが、正しく生きていたころの思い出は、強烈な渴望と嫉妬を以て、今でも鮮明に思い出せる。								
不燃体	★							
効果: これがなければ生き残ってはいないだろう。最後の希望を支える最も重要なエフェクト								
麗しの容貌	★							
効果: 忘れてはいけない。切った髪は生えてくるが、存在しない毛根からは毛は生えない。後多分古代種がちょっとだけ悪化してる。さておき肉体的にはすごく元気で安定している。								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

周囲の注目を惹きつけ、それでいて攻撃が当たらない。彼は敵の前に堂々と腕組みし、ただ立っている。敵の眼前で敵を睨め付ける目は怒りの炎に燃え上がり、周囲の草木はあまりの熱に燃え上がり、彼の頭の最後の希望なる頭頂部の一本の毛髪もあまりの気迫に逆立ち燃え上がる。(不燃体故に表面に着火するものの燃焼はしない。)

あまりの熱気に発生した陽炎と炎熱が、時に虚像を生み、時に攻撃を阻む。ならば彼を無視すればよい。無視さえできれば、攻撃を阻まれることはあれ、避けられることはない。…しかし、しかし何故か敵の注目は彼に吸い寄せられるのだ。彼の頭頂部の風前の灯火が奴らをそうさせるのだ。後一息だ、堪って見せる、とその本能を燃え上がらせ、その目を釘付けにしてしまうのだ。究極の防衛者。存在そのものが護衛者。そこにあるだけで、彼は彼の仲間を救うのだ。彼はただそこに立ち、仲間の為に心を削り、体内を汚染していく。究極の自己犠牲。何、多少のことは大丈夫だ。私はもう十分生きたのだ。長く行き過ぎたものは次第に命の価値を下げ、仕舞には浪費を願う始める。私の命はもはや貴重で大切なものでは無くなった。勿論、どれほどにこの身を削っても救えない者はいるだろう。仏様の水かきからも多くの人々は零れ落ちるのに、どうして私如きが世界を救えるものか。だが自分の手が届く範囲、部下、友人、お客様。その者たちだけでも守り抜こう。彼らは私と違い、貴重で大切な命を持っている。

彼の参加した作戦では不自然なほど仲間の死傷率、損耗率が低い。作戦成功率で言えばそれなりでしかないが、仲間を死なせてしまった回数(ほんの片手で数えられる程度)である。そうして矢面に立つ彼は、それでも失われた命を思って怒り、猛り、心を燃え上がらせる。(闘志だけでなく毛もである。)

そうしてより苛烈に敵前で注目を集め、生還するこの男。誰が呼んだか“死なずの一本”(非公式)。高野山支部支部長 焼野原 一本 その人である。

一時出向により八王子市支部に支部長として派遣されていた時期がある。

ジャーム化した際には、氷壁、フェニックスの翼という攻撃性は低いものの回避妨害回復を併せ持つ歩く大災害と化す可能性がある為、ファイル名“完全なる焼野原/ロストホープ”という対策作戦ファイルが彼の協力の下、作成され、保管されている。